

ふれあい つながり 波松大すき!

あわら市波松小学校

1 取り組みの概要

(1) 地域や家庭と学校の連携実績

項目	回数
地域・学校協議会	2回
中学校区を単位とした協議会	回
地域及び家庭への学校公開	6回 (のべ) 6日

(2) 地域人材の活用 (のべ人数)

講師・ゲストティーチャー	人
授業ボランティア (含: 低ボラ)	人
登下校支援ボランティア	人
その他 (波っ子子ども教室サポーター)	36人

(3) 特色ある活動

テーマ「ふるさと教育」

具体的活動内容

①波っ子子ども教室

「波っ子子ども教室」(平成17年度から始まる。金曜日の午後、地域のサポーターの方々が見守り活動を兼ねて、低学年の児童のために遊びと学びの時間を用意してくださる)を継続している。今年度は市の助成で備品を購入したり、ジャズバンドやウクレレサークルの人たちと音楽遊びを楽しむこともできた。子どもたちが充実した時間をすごせるよう、サポーターの方々は毎回工夫をこらしてくださる。学校はサポーターの方々と連絡をとり、事前の準備を行っている。

②地域に取材する授業

今年度は1・2年、3・4年、5・6年それぞれで(本校は複式学級である)、地域に取材した題材で道徳の授業を行った。校区にひまわり畑やコスモス畑を整備する人、児童玄関にある「健康の像」がつけられるきっかけとなった地区の人々の献血運動、ロシアタンカーの重油流出事故の際のボランティア活動…授業公開にはたくさんの保護者が参観に来られた。

③ふるさとの浜で

6月12日(日)に地元の漁師さんの協力を得てPTA行事「地引き網体験」行い、7月10日(日)には「親子浜そうじ」を行った。ゴミ袋を手に親子で浜を歩く。空き缶やペットボトル、発砲スチロール、花火の残骸…たくさんのゴミがたまっていく。この日は地区の浜そうじと重なり、場所を分担して行われた。こうした行事は、子どもも大人も、ふるさとの海を見つめ直す機会になっている。

④学校だよりを全戸に

毎月発行する学校だより「波っ子」は、学校の今を伝える写真を中心にしている。今年度はそこに子どもたちの「言葉」を盛り込んで編集した。これを高学年児童と教員で、校区内全戸(約200戸)に配って歩く。歩いてみると小学校に通う子のいない家の方と話す機会があったり、学校に応援のメールが届いたりして励みになる。



ふるさとのために…親子浜そうじ

2 成果と課題

家庭・地域・学校のふれあいやつながりを意識した交流・体験活動を、PTA行事や学校行事として計画的に実施することができた。また、地域のよさを生かした授業への教員の意識も高まってきた。今後、こうした活動を継続していくためには、予算と人材の確保が課題となる。一人でも多くサポーターが来てくださるよう、地道に、わかりやすく、地域への発信を続けていきたい。